

1. 文型

1.

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(1) この本は役に立つと彼はわかった。

(this / found / useful / . / he / book)

(2) 彼女は彼が笑うのを聞いた。

(him / laugh / heard / . / she)

(3) 私は彼女が走っているのを見た。

(running / her / . / saw / I)

(4) あなたの名前が呼ばれるのを聞きましたか。

(hear / you / name / did / called / ? / your)

[解答]

- (1) He found this book useful.
- (2) She heard him laugh.
- (3) I saw her running.
- (4) Did you hear your name called?

Note

1. 文型

1. 第5文型（知覚動詞）

(1) この本は役に立つと彼はわかった。

He / found / this book / useful.

↑
主語

↑
動詞

↑
目的語

↑
補語

find A B 「AがBだとわかる」

文型については、概ね中学内容で学習しますが、高校内容では第5文型で注意をしないといけないものがあります。まず、第5文型の基本は次のようなものでした。

第5文型 「主語＋動詞＋目的語＋補語」

「(主語)は、(目的語)を(補語)に～する」

We call him Bob. (私たちは彼をボブと呼びます。)

S V O C (名詞)

この第 5 文型で使う動詞には、**call** (～を…と呼ぶ)、**make** (～を…にする)、**name** (～を…と名付ける)、**keep** (～を…にしておく) がありますが、動詞 **find** も **find A B** で「A が B だとわかる」の意味になります。この表現もよく出てきますので、しっかり覚えておきましょう。

find A B 「A が B だとわかる」

(1)の問題では「…この本は役に立つと…わかった」ですので、**find A B** の文型を使って、**found this book useful** の語順を作りましょう。

Note

(2) 彼女は彼が笑うのを聞いた。

She / heard / him / laugh.

↑
主語

↑
知覚動詞

↑
目的語

↑
補語

hear+A+動詞原形「Aが～するのを聞く」

第 5 文型に含まれる文型で注意を要するものに「知覚動詞」の文型があります。

「知覚動詞」とは、**see**(見る)、**hear**(聞く)、**feel**(感じる)など「知覚」を表す動詞のことです。これらの動詞は次のような文型を取ります。

主語 +	知覚動詞	+ 目的語 +	動詞原形	…動作の全部
	see (見る)		現在分詞	…動作の途中
	hear (聞く)		過去分詞	…目的語が～される
	feel (感じる)			

「(目的語)が～する [～している、～される] のを
(主語)は見る・聞く・感じる」

① I **saw** her go out yesterday.

知覚動詞 目的語 動詞原形

(昨日彼女が出かけるのを私は見た。)

② We **saw** her working yesterday.

知覚動詞 目的語 現在分詞

(私たちは昨日彼女が働いているのを見た。)

③ I **heard** this song sung yesterday.

知覚動詞 目的語 過去分詞

(私はこの歌が昨日歌われるのを聞いた。)

まず例文①ですが、her「彼女が」go out「出かける」のを I saw「私は見た」という形が知覚動詞の see は取れるのです。目的語の her と動詞の原形の go は主語と動詞の関係になっています。

また、ここでは動詞の原形を使っているので、動作の全部を見たことになります。

次に例文②では、her「彼女が」working「働いている」のを we saw「私たちは見た」という意味になり、この場合、現在分詞を使っていますので、動作の途中、つまり働いているところをを見たことになります。

例文③では、this song「この歌が」sung「歌われた」のを I heard「私は聞いた」という意味になり、ここでは過去分詞が使われていますので、歌が「歌われた」という受身の意味になります。

つまり、前頁のまとめにも記しているように、目的語の後に動詞の原形があれば「その動作の全部を」、現在分詞がきていれば「その動作の途中を」、過去分詞が置かれてあれば「(目的語が)～されている」のを表すこととなります。

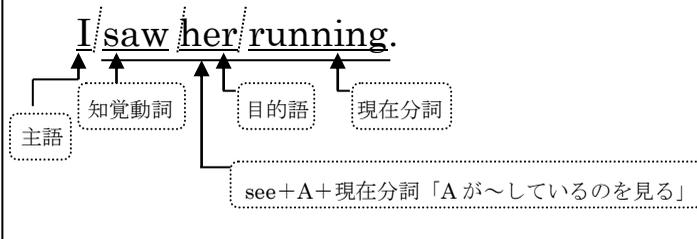
(2)の問題では、「…彼が笑うのを聞いた」となっていますので、知覚動詞の **hear** を使って、**heard him laugh** という語順にすることとなります。

なお、主な知覚動詞には次のようなものがあります。

see (見える)	look at (見る)	watch (じっと見る)
hear (聞こえる)	listen to (聞く)	notice (気づく)
observe (気づく)	feel (感じる)	

Note

(3) 私は彼女が走っているのを見た。

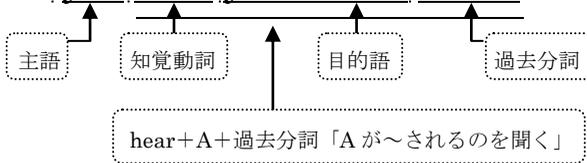


(3)の問題では「…彼女が走っているのを見た」となっていますので、知覚動詞の **see** 使って **saw her running** としてください。なお、この英文は現在分詞を使っていますので、走っている動作の途中を見たこととなります。

Note

(4) あなたの名前が呼ばれるのを聞きましたか。

Did/you/hear/your name/called?



(4)の問題では「あなたの名前が呼ばれるのを聞き…」となっていますので、知覚動詞の **hear** を使って、**hear your name called** としましょう。「名前が呼ばれる」と受身の意味になっていますので、**call** の過去分詞 **called** を使うことがポイントです。

なお、文全体は「聞きましたか」で過去の疑問文ですから、**Did you hear** で始めることになります。

2.

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(1) 彼は私にその話を繰り返させた。

(story / made / . / repeat / he / the / me)

(2) 彼女はフランス語でわかってもらえなかった。

(make / understood / French / couldn't / . /
herself / she / in)

(3) 私はその人に自分の自転車を直してもらった。

(I / repair / . / the / bike / had / my / man)

(4) 私は自転車を盗まれた。

(bicycle / . / had / stolen / I / my)

(5) 彼は食事中ずっと私たちを笑わせた。

(laughing / meal / us / all / he / . / the / had)

[解答]

- (1) He made me repeat the story.
- (2) She couldn't make herself understood in French.
- (3) I had the man repair my bike.
- (4) I had my bicycle stolen.
- (5) He had us laughing all through the meal.

Note

2. 第5文型（使役動詞）

(1) 彼は私にその話を繰り返させた。

He made me repeat the story.

使役動詞

目的語

動詞の原形

make+A+動詞の原形「Aに～させる」

さらに、第5文型に含まれるもので注意を要するものに「使役動詞」の文型があります。

「使役動詞」とは、**make**、**have**、**let**、**get** を言います。これらの動詞は次のような文型を取ります。

主語 + make + O + 動詞原形 … 「O に～させる」 (強制的に)	過去分詞 … 「O を～させる」(慣用表現のみ)
主語 + have + O + 動詞原形 … 「O に～させる、～してもらう」 (当然に)	過去分詞 … 「O を～してもらう、～される」 現在分詞 … 「O に～させる、～させておく」
主語 + let + O + 動詞原形 … 「O に～させる」 (望み通り)	
主語 + get + O + to + 動詞原形 … 「O に～させる、～してもらう」 (当然に)	過去分詞 … 「O を～される、～してもらう」 現在分詞 … 「O に～させる、～させておく」

まず、**make** ですが、これは基本的には「(無理にでも強制的に)～させる」ことを意味します。そして目的語(O)の後に動詞の原形を使うと、「目的語が～する」ことを意味し、過去分詞が置かれると「目的語が～される」と受身の意味になります。

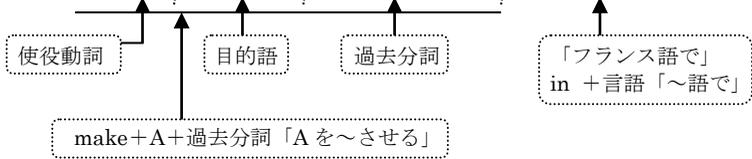
(1)の問題は「私にその話を繰り返させた」ですので、使役動詞 **make** を使って **made me repeat the story** とします。

Note

(2) 彼女はフランス語でわかってもらえなかった。

She couldn't

make herself understood in French.



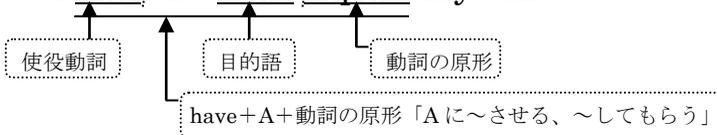
(2)の問題は「フランス語でわかってもらえなかった」ですが、これは「フランス語で自分自身をわからせる、理解させる」と考えて、使役動詞の **make** を使い **made herself understood in French** とします。**herself** が「理解される」で受身ですので、**understood** を使うことに注意が必要です。

ただし、この〈make + 目的語 + 過去分詞〉は **make oneself understood** や **make oneself heard** のような慣用表現に限って用いられることに気をつけて下さい。

Note

(3) 私はその人に自分の自転車を直してもらった。

I had the man repair my bike.



使役動詞の **have** では、目的語にくるのはしかるべき職業の人で、その人に料金を払って「ある仕事・サービスをさせる [してもらう]、あるいは目上の者が目下の者に～させる」という文脈で用いるのが基本になります。

(3)の問題では「…その人に自分の自転車を直してもらった」ですので、使役動詞 **have** を使って **have the man repair my bike** としましょう。

Note

(4) 私は自転車を盗まれた。

I had my bicycle stolen.

使役動詞

目的語

過去分詞

have + A + 過去分詞 「A を～される」

使役動詞の **have** は、目的語の後に過去分詞がくると、「主語は目的語を ①～してもらう [使役] ②～される [被害] ③～してしまう [完了]」の意味になります。

主語 + **have** + 目的語 + 過去分詞

- ① 「(主語は目的語を)～してもらう」 [使役]
- ② 「(主語は目的語を)～される」 [被害]
- ③ 「(主語は目的語を)～してしまう」 [完了]

I had my bicycle repaired.

(私は自転車を修理してもらった。) [使役]

You should have the job done by noon.

(あなたは昼までにその仕事をしてしまう方がいい。) [完了]

(4)の問題では「…自転車を盗まれた」なので、had my bicycle stolen の語順にしましょう。〔被害〕を表しています。

Note

(5) 彼は食事中ずっと私たちに笑わせた。

He had us laughing all through the meal.

使役動詞

目的語

現在分詞

all through
「～中ずっと」

have + A + 現在分詞 「A を～させておく」

使役動詞の have は、目的語の後に現在分詞を置くと、「主語は目的語に ①～させる、させておく、～している状態にする ②(経験や被害)をした」の意味になります。

主語 + have + 目的語 + 現在分詞

- ① 「(主語は目的語に)～させる、させておく、
～している状態にする」
- ② 「(主語は目的語に[を、が])(経験や被害)をした」

I have the taxi waiting outside.

(私はタクシーを外に待たせている。)

I had water dripping through the ceiling.

(天井から水がぽたぽた漏れていた。)

(5)の問題では「…ずっと私たちに笑わせた」となっていますので、〈have + 目的語 + 現在分詞〉を使って had us laughing の語順を作りましょう。

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(6) 私は庭で犬を自由に走らせた。

(dog / let / yard / . / I / the / run / my / free /
in)

(7) 彼は妻に自分のシャツを直してもらった。

(to / got / shirt / wife / . / he / mend / his /
his)

(8) 彼は自分のシャツを妻に直してもらった。

(shirt / by / wife / he / . / mended / his / got /
his)

(9) 私は自転車を盗まれた。

(got / stolen / my / I / bike)

[解答]

- (6) I let my dog run free in the yard.
- (7) He got his wife to mend his shirt.
- (8) He got his shirt mended by his wife.
- (9) I got my bike stolen.

Note

(6) 私は庭で犬を自由に走らせた。

I / let / my dog / run free / in the yard.

使役動詞

目的語

動詞の原形

「庭で」

let+A+動詞の原形「Aを～させてやる」

「〈犬などが〉自由に走りまわる」

使役動詞の let は「(相手がしたがっていることを)～させてやる」が基本の意味で、〈主語+let+目的語+動詞原形〉の語順で使います。目的語の後には動詞の原形しか置けません。

主語+let+目的語+動詞原形

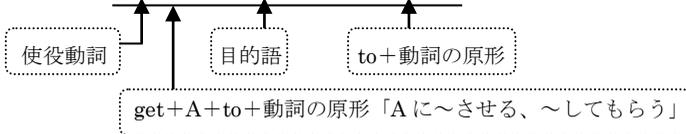
- ① 「(主語は目的語に)～させてやる」
- ② 「(主語は目的語を)～するままにしておく」

(6)の問題では「…犬を自由に走らせた」ですので、let my dog run の語順にします。run free は「〈犬などが〉自由に走りまわる」の意味です。

Note

(7) 彼は妻に自分のシャツを直してもらった。

He got his wife to mend his shirt.



使役動詞の **get** は「(説得などをして、なんとか)～させる、～してもらう」が基本的な意味になります。目的語の後には、**to+動詞原形**、過去分詞、現在分詞のいずれかを置きます。**make** や **have** などの他の使役動詞と違って、動詞の原形ではなく **to+動詞原形** になることに注意して下さい。

主語+**get**+目的語+**to+動詞原形**

「(主語は目的語に)～させる、～してもらう」

(7)の問題では「…妻に自分のシャツを直してもらった」となっていますので、**got his wife to mend** の語順を作ります。

Note

(8) 彼は自分のシャツを妻に直してもらった。

He got his shirt mended by his wife.



使役動詞の **get** が目的語の後に過去分詞を取るときは、次のようになります。目的語と過去分詞の間には受動の関係があります。

主語 + **get** + 目的語 + 過去分詞

- ① 「(主語は目的語を)～してもらう、～させる」〔使役〕
- ② 「(主語は目的語を)～される」〔被害〕
- ③ 「(主語は目的語を)～してしまう」〔完了〕

I **got** my **bicycle** **stolen**. (私は自転車を盗まれた。)〔被害〕

She worked hard to **get** the **job** **done**.

(彼女は仕事を終わらせるために一生懸命働いた。)〔完了〕

(8)の問題は「…自分のシャツを妻に直してもらった」ですので、**got his shirt mended** の語順を作りましょう。**mended** は **mend** 「直す、修繕する」の過去分詞です。

Note

(9) 私は自転車を盗まれた。

I got / my bike / stolen.

使役動詞

目的語

過去分詞

steal 「盗む」の過去分詞
steal-stole-stolen

get + A + 過去分詞 「A を～される」

(9)の問題では、「…自転車を盗まれた」なので、**got my bike stolen** としましょう。「自転車」が「盗まれた」で受け身の関係となっていますので、**steal** 「盗む」の過去分詞 **stolen** を使います。

